

## 施設野菜における病害虫防除対策について

冬春期の施設野菜の植え付けが始まります。病害虫の発生を抑え、健全な作物を栽培するため、適切な防除対策が必要です。また育苗時における健全苗の確保は、本圃への病害虫持ち込み防止に極めて重要です。

### 育苗時における対策

#### 1 育苗時に発生するおもな病害虫

作物名	害虫名	病害名
にがうり、きゅうり、すいか、 メロン等のウリ科作物	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ ハモグリバエ類	ウイルス病
なす、ピーマン	タバココナジラミ センチュウ類	うどんこ病
トマト	ハモグリバエ類 タバココナジラミ センチュウ類	苗立枯病

#### 2 防除対策

- (1) 床土
  - a 新土もしくは土壌消毒済みの培土を用いる。
- (2) 種子
  - a にがうりの自家採種をする場合は、つる割病の発生した圃場では行わない。
  - b 由来のはっきりした健全な種子を用いる。
- (3) 害虫の侵入防止
  - a 苗は施設内で管理し、防虫ネット等でハモグリバエ類やウイルス媒介虫のアブラムシ類、ミナミキイロアザミウマ、タバココナジラミなどの侵入を防ぐ。また、侵入が確認されたときは、適宜薬剤散布を行う。
- (4) その他
  - a ウリ類つる割病、トマト萎ちょう病、なす半身萎ちょう病などの土壌病害の発生が本圃で懸念される場合は、接木苗を用いる。台木の育成においても病害虫の防除を徹底する。
  - b 育苗は専用の施設で行う。
  - c 破れたビニールや防虫ネットの補修を行う。
  - d 購入苗は施設内で保管・管理し、定植まで病害虫の発生に気を付ける。

## 栽培初期における対策

### 1 冬春期の施設野菜に発生する主な病害虫

作物名	害虫名	病害名
にがうり、きゅうり、すいか、 メロン、とうがん等のウリ科作物	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ ハモグリバエ類 タバココナジラミ	ウイルス病
なす、ピーマン	ハスモンヨトウ チャノホコリダニ ハダニ類 センチュウ類	うどんこ病
トマト	ハモグリバエ類 タバココナジラミ ハスモンヨトウ トマトサビダニ センチュウ類	菌核病
さやいんげん	インゲンモグリバエ ハモグリバエ類 ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ ハスモンヨトウ チャノホコリダニ ハダニ類	うどんこ病  菌核病

### 2 防除対策

健全な苗を植付け、以下のことに留意する。

#### (1) 虫害

- a 多発すると防除が困難になるので、早期発見・早期防除に努める。
- b 摘葉や摘芯後の残渣は発生源になるので、ビニール袋に入れるなどして、圃場外に持ち出し処分する。
- c 破れたビニールやネットの補修を行う。
- d 圃場内や周辺雑草は発生源になるので除草を行う。
- e 定植・播種時には粒剤処理を行う。
- f 薬剤抵抗性を発達させやすすため、同系統薬剤の連用は避ける。

#### (2) 病害

- a ウイルス病
  - (a) 発病株は早期発見に努め、抜き取り処分する。
  - (b) 媒介虫(アブラムシ類、ミナミキイロアザミウマ、タバココナジラミ)の防除を徹底する。
  - (c) ハサミの消毒や手の洗浄を行う。
  - (d) 施設の入口・天窓・側窓には防虫ネット等を張るとともに、はかまや裾のビニールをしっかりと留め、媒介虫の侵入防止を図る。また、入口には二重カーテンを設置する。
- b うどんこ病、菌核病
  - (a) 多発すると防除が困難になるので、早期発見・早期防除に努める。
  - (b) 窒素過多を避け適正な肥培管理を行う。
  - (c) 多湿にならないように、排水を良くし、換気に気を付ける。
  - (d) うどんこ病では、老葉や病葉はビニール袋に入れるなどして圃場外に持ち出し処分する。
  - (e) 菌核病では病果や病枝は早期発見に努め、除去する。